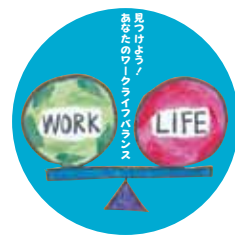


# NEWS Letter



学長 結城 章夫

## 「山形大学男女共同参画基本計画」の策定に当たって 山形大学長 結城章夫

山形大学は、平成21年1月に「山形大学男女共同参画推進宣言」を発表しましたが、これを受けてこのたび、「山形大学男女共同参画基本計画」を策定いたしました。この基本計画は、先ず、学内各部署で丁寧な議論を行っていただき、その意見を集約して、平成22年6月の教育研究評議会で審議・了承を得たものであります。基本計画の策定に当たり、このような全学的合意形成手続きを経たことは、これからの具体的な取り組みを実効性のあるものとする上で大変に意義のあることであったと考えています。

折しも政府においては、第3次の「男女共同参画基本計画」や第4次の「科学技術基本計画」の策定作業

が進められています。今回の山形大学の基本計画は、そのような政府の動きに対応するとともに、組織構成員の多様性（ダイバーシティ）を活かす上で最も重要な男女共同参画を推進することによって、山形大学の就労環境と修学環境をより生き生きとしたものにしていくことを目指しています。

山形大学は、国立大学が男女共同参画社会の実現のために果たしていくべき社会的な役割と責任をしっかりと認識しつつ、この基本計画に基づいて全学が一丸となって、男女共同参画の推進に取り組んでいく決意です。今後とも引き続き、関係の皆様方のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 山形大学男女共同参画基本計画（平成22年6月策定）

### I. 目的

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画社会実現のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画推進宣言」（平成21年1月23日）を策定した。本学の学生及び教職員が性別にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくため、ここに山形大学男女共同参画基本計画（以下「基本計画」という。）を定める。

### II. 基本方針

目的の達成に向けて、本学の基本方針を次のとおり定める。

1. 教職員（教員及び職員）等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 男女共同参画に関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備
4. 男女共同参画への意識改革の促進
5. 女性研究者（教員・後期博士課程学生・ポストドクター）の裾野拡大
6. 男女共同参画推進のための教育・研究の充実
7. 男女共同参画に関する学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 男女共同参画に取り組む地域社会等との連携

### III. 具体的施策（行動計画）

Ⅱの基本方針に基づく具体的な取組として、以下の行動計画を掲げる。

#### 1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正

##### 1) 女性教員比率の向上

- 雇用機会均等法によると女性の割合が4割を下回っている場合、男女格差が存在していると判断される。本学においても女性教員比率を引き上げるとともに、格差の是正に努める。
- 女性教員の採用比率を、当面、全体として20%（「国立大学協会」の提言）以上とすることを目標とする。
- 平成25年度までに、女性教員の比率を現在の13.1%（平成21年度）から15%まで引き上げる。将来的には、女性教員の比率を25%まで引き上げる。
- 上記の目標を達成するため、必要な改善措置等を男女共同参画推進室を中心に各学部等においても具体的に検討し、その達成状況を毎年点検する。

##### 2) 大学運営における女性参画の拡大

- 女性職員の人材育成のため、積極的な方策を推進する。
- 女性教職員の管理職比率の向上のため、登用等を積極的に推進する。

##### 3) 男女格差是正のためのチェック機能の導入

- 教職員の採用や昇進において、積極的な改善策がとられているか、また、業績評価において、性別による差別等がないかを定期的に点検する。

#### 4) キャリアアップ支援策の推進

- ・メンター制度を構築し、助教・助手等の女性教員や博士課程の女性大学院生(ポストドクターを含む)が抱える問題に助言するシステムを整備する。
- ・大学内外の研修については、女性教職員がその機会を妨げられることのないように支援する。

## 2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り

### A 研究環境

#### 1) ユビキタス・ワーキングを可能にする環境の整備

- ・自宅等のパソコンから学内LANを利用し、大学外にいても研究や業務が可能となるユビキタス・ワーキング・システム導入の可能性を探り、順次、その環境を整備する。

#### 2) 巡回相談・来室相談の実施

- ・女性研究者が抱える問題を早期に発見して対応すべく、定期的な巡回相談を行う。また、すべての教職員からの相談も随時受け付け、当該部局と連携し協力して問題の解決に当たる。

#### 3) 研究継続支援員の配置

- ・育児・介護中の研究者が研究を継続できるよう、適切な「研究継続支援員」を配置するなどの支援を行う。

#### 4) 学会出張時の支援

- ・国内外の学会参加を、育児・介護を理由に断念することがないように、地域の保育・介護支援施設とも連携して支援する。

### B 就労環境

#### 1) 保育制度の充実

- ・各キャンパスの実情を踏まえ、そのニーズを把握し、キャンパスに合った保育サービスを提供できるよう具体策を検討し実施する。
- ・現在本学において実施している、学生を活用した「託児サポート制度」を保育サービスに組み入れる。

#### 2) 育児・介護支援

- ・男性教職員を含め、育児・介護休業の取得に支障がないように環境を整備する。
- ・短時間労働制等の積極的な活用を図る。
- ・育児・介護の相談窓口を設置する。

#### 3) 就労環境・就労慣行の見直し

- ・ワークライフバランスの観点から、業務の改善に取り組み超過勤務を縮減すると共に各職場の就労慣行を見直し、就労環境の改善に積極的に取り組む。
- ・会議については、就業時間内に終了するよう工夫する。

## 3. 男女共同参画に関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備

- ・男女共同参画に関する施策の策定や実施について、教職員及び学生からの意見や要望を積極的にくみ上げるシステムを整備する。

## 4. 男女共同参画への意識改革の促進

- ・シンポジウムや啓発セミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的に開催する。
- ・女性研究者ネットワークを構築し、定期的な勉強会等を開催する。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的に開催する。
- ・ホームページ、男女共同参画ニュースレター、メールマガジン等による学内外への情報発信を強化する。

## 5. 女性研究者の裾野拡大

- ・専門分野を活かした職業に就いている女性卒業生等を招いた講演会や交流会を、各学部等で定期的に開催する。
- ・女子中高生向けのセミナー等を開催する。

## 6. 男女共同参画推進のための教育・研究の充実

- ・「ウーマン・オブ・ヤマガタ」など、ジェンダー学や男女共同参画関連授業、女性のキャリア支援教育科目を拡充する。
- ・ジェンダー学や男女共同参画に関する研究や顕著な業績を表彰制度に組み込む。

## 7. 男女共同参画に関する学内の調査・分析・統計等の情報提供

- ・男女共同参画への意識と実態の経年変化を捉えることを目的に、毎年、学内教職員を対象にアンケート調査を実施し、その結果をホームページ等で公表する。
- ・男女共同参画に関する本学の基本的なデータを公表する。

## 8. 男女共同参画に取り組む地域社会等との連携

- ・男女共同参画に関して他大学や地域の自治体等とのネットワークを築き、連携を図る。

## IV. 推進体制

本基本計画の実施に当たっては、男女共同参画推進委員会の決定の下、全学の推進組織である男女共同参画推進室と各部局の推進組織とが連携協力し、一体となって具体的な事業を推進する。

## V. 計画期間の設定等

- 1) 基本計画の計画期間は、平成22年度から平成31年度までの10ヶ年とする。
- 2) 本学及び各部局は、平成22年度から平成31年度までの計画期間の目標と年度ごとの計画を設定し、年度ごとに達成状況を点検評価する。
- 3) 計画策定後、2年目の平成23年度及び6年目の平成27年度には、基本計画の達成状況について中間評価を実施する。

## 山形大学男女共同参画推進委員会の新委員紹介

男女共同参画推進のための各学部における取組を強化するため、「山形大学男女共同参画推進に関する規程」を一部改正し(平成22年4月14日)、本推進委員会の委員として、新たに7名の方々が加わりました。

北川 忠明	人文学部 教授 副学部長
鈴木 漢	地域教育文化学部 教授 副学部長
坂本 政臣	理学部 教授 副学部長
深尾 彰	医学部 教授 副学部長
廣瀬 文彦	工学部 教授 副学部長
小野寺弘道	農学部 教授 副学部長
加納 寛子	基盤教育院 准教授

# 工学部において開催 「男女共同参画フォーラム」 ～女性にとって魅力ある工学部とは～

5月10日

7名の学生を含む30名の参加を得て、男女共同参画フォーラムが工学部(米沢キャンパス)で開催されました。学生はじめ理事・学部長まで一堂に会して、標記のテーマで語り合う機会は初めてのことです。



田中真美氏

講演：田中真美氏(東北大学大学院医工学研究科教授・山形市出身)

「東北大学女性研究者育成支援推進室の取組～ハードリング支援事業からジャンプアップ事業へ～」

東北大学では過去3年間、育児介護支援・次世代支援・環境整備支援を中心に行ってきました。昨年度からは、理系分野の女性研究者を増やすために、5年間で120名の女性採用計画(内30名は科学技術振興調整費加速プログラムによる)に取り組んでいます。また、その女性研究者を支えるために、複数メンターによる助言・指導体制の整備、世界トップクラス研究リーダー養成のためのセミナーを開催しています。

「異分野融合学問領域の研究の創出も課題です」と語る田中先生は、3才のお子さんを育てながら日本機械学会賞を受賞するなど活躍中です。若手研究者をエンパワーメントするロールモデルともなっていたことができました。

田中真美氏の講演の後、全員が自己紹介し、早速、なぜ、工学部の中でも特に機械科

に女性が少ないのか、という話題になりました。「機械=男性」というイメージがある、それで敬遠されるのは残念、という意見が出されました。

工学部を選んだ理由について学生から、「高校で城戸淳二先生(山大工学部教授・有機EL研究第一人者)の授業を受けて興味をもった」、「色の変化に魅力を感じて化学が好きになった」等の声が出され、「工学の魅力女子高校生にいかアピールするかが大切だ」という話になりました。また、

高校生の時に会ったロールモデル(先生や先輩など)の影響の大きさも話題となりました。

工学分野は決して女性の生活とかけ離れたところにあるのではなく、例えば化粧品など女性の関心の高い分野とも密接な関係があります。修士課程を修了して商品開発に進みたいという学生はいますが、博士課程に進もうとする学生が少ないため、今後、いかに増やすかが課題であるとされました。



修士課程学生からの活発な発言

## 地域教育文化学部 高木直教授

### 「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」

6月22日



表彰式が官邸で行われ、玄葉光一郎男女共同参画担当相から表彰状が手渡されました。午後からは、「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」(内閣府主催)が開催され、受賞者の紹介が行われました。

高木先生は、平成9年に山形県女性施策推進懇話会会長に就任以来、県の男女共同参画に関する会議等の会長を歴任し、「山形県男女共同参画推進条例」や「山形県ワーク・ライフ・バランス憲章」の制定などに尽力されました。また、山形大学においては、男女平等に関する教育・研究を行うと共に、男女共同参画推進委員、理事・副学長付きスタッフとして男女共同参画の推進に精力的に取り組んでおられます。



## 第2回山形大学男女共同参画フェスタ開催

6月22日～7月5日



昨年、「男女共同参画週間」(内閣府)に合わせ、山形大学男女共同参画フェスタを開催しています。今年は、会場をインフォメーションセンターに移して、これまでの男女共同参画推進室の取組や6月に策定された「山形大学男女共同参画基本計画」のパネル展、関連図書紹介などを行いました。また、映画で考える公開授業や「映画でおしゃべり男女共同参画カフェ」など、誰でも気軽に参加して語り合える企画も用意し、学生・教職員をはじめ市民の方々からの参加も得ることができました。



# 女性研究者からの The Message 【第3回】

◎女性研究者を順次紹介してまいります



## 長谷見 晶子 先生

山形大学理学部地球環境学科 教授



### ◎若き学生と女性研究者たちへ

高校生のときに、「プレートテクトニクス説」という地球科学の新しい考えが登場しました。その説を紹介した本を読んだことがきっかけで、地震学の分野に興味を持ち、今も地震の研究を続けています。高校の時のイメージと「地震学」の中身が違うことは大学に入ってからよく分かったもののなんとなく離れがたく、大学

院でも地震の研究室に進学しました。

大学院を終えたらアルバイトで暮らしていくしかない、と覚悟を決めた頃、指導教員の方たちの力添えがあって、山形大学理学部の地球科学科（現在の地球環境学科）の助手に採用されました。1970年代は山形大学など地方の国立大学理学部に地球科学系の学科が新設されていった時期で、運の良いことでした。

最近は地震の分野でも女性の研究者が増えつつありますが、私の年代の前後ではこの分野で大学院に進学する女性は数年に一人でした。そのような中で、当時では珍しく、大学院での研究室にはお子さんがいる女性の助手の方がいました。身近にそういう先輩がいる安心感は大きいものでしたが、今、振り返ってみると、職業に対する考え方は高校のころの先生方の影響が大きかったように思えます。女

子高等師範学校（現 お茶の水女子大学）で学んだ先生方には受けた教育を生かして社会で自立する、という姿勢を感じました。

現在の社会、経済情勢から考えると、仕事を持つことは女性にとってますます重要になってきていると思います。そのための環境の方はまだ整っていないとはいえませんが、まずは仕事、研究を続けていくという決意をしっかりと持っていればと願っています。

### ◎ご研究の魅力は何ですか。

地震の波形や震源の分布から地下の構造を調べる研究をしています。研究室の学生、院生といっしょに地震の観測のために景色の良いところに出かけたときなど、こういう研究をしていて良かったと感じます。

## Hello! University 他大学の取り組み紹介

女性研究者支援モデル育成事業に取り組み、実績のあった他大学の事例を紹介するコーナーです

## 長崎大学「仕事と家庭の両立」支援

今年の3月に男女共同参画推進センター「おもやいセンター」が開設されました。「おもやい」とは、長崎弁で「一緒に」という意味です。元教職員用の宿泊所として使っていた平屋の建て物を改装し、ミーティングルーム・全面床暖房の子ども用プレイルーム・事務室を設けています。現在、学生（おもやいキャンパス）サポーターがプレイルームで一時預かりする育児支援をスタートさせるために準備中です。

また、出産や育児等で研究活動が滞らないように、大学院生を「テクニカルスタッフ」として雇用し、女性研究者の研究をサポートするシステムが始まっています。当初は、利用を募っても希望が少なかったのですが、徐々に理解が広がり、申込みも増えてきたということです。



※6月1日に長崎大学から3名の方の訪問がありました。山形大学の託児サポーター制度に関心をもたれてのご訪問でした。貴重な情報交換の機会となりました。

### Information ①

## 「学長・学部長と研究者との懇談会」を開催します

自由な意見交換を行う機会です。多くの方のご参加をお待ちしています。

- |            |                     |             |
|------------|---------------------|-------------|
| ○人文学部      | 7月8日(木) 16:20～17:30 | 人文学部第2会議室   |
| ○理学部・基盤教育院 | 7月9日(金) 15:30～16:30 | 理学部会議室1     |
| ○医学部       | 8月2日(月) 17:00～18:00 | 医学部第1会議室    |
| ○地域教育文化学部  | 8月3日(火) 16:30～17:30 | 地域教育文化学部講義室 |
| ○農学部       | 8月9日(月) 11:00～12:00 | 農学部会議室      |

### Information ②

## 「第1回山形ワークライフバランス・イノベーション アドバイザリー・ボード」の開催 ●日時/7月16日(金)

外部の有識者3名で構成するアドバイザリー・ボードを開催します。大所高所の立場から、山形大学の男女共同参画推進に資する幅広いアドバイスをいただきます。

編集後記/学長・学部長と女性研究者等との懇談会をすべての学部で開催します。この機会に、とかく孤立しがちだった女性たちの横のネットワークが広がっていくことを期待しています。2010年7月



## 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12  
TEL 023-628-4937、4938、4939  
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/